

スウェーデン 環境ニュース

2000年 9月号 ページ1 / 3

エコホテルの競争が始まった

99年秋、北欧5カ国共通の公式エコマークである「白鳥マーク」の認定基準の中に始めてサービス対象についての基準が追加された。それはホテルや宿泊研修場を対象にしたサービスに限定されているが、企業や個人が宿泊先や会議場を選ぶ時に簡単に参考にできる基準である。白鳥マークはホテルの環境に対する負荷が少ないことを証明しているの、グリーン購入を進めている企業にとって魅力がある。認定を受けたホテルにとっては、自分たちの積極的な環境対策を有利な宣伝の道具として使える利点がある。

北欧で初めての白鳥マーク認定ホテルになったのは、ストックホルム市近郊のスウェーデンでNo.1のエコホテル（会議場も併設）として知られてきたソング・セービ（Sånga Säby）だった。その後、新しい認定ホテルがスウェーデンとノルウェーに誕生している。スウェーデンでは、ソング・セービのほかにも4ホテル、ノルウェーでは2ホテル。その結果、ソング・セービは競争にさらされ、一層頑張らなければならないことになりそう（以前の報告は97年9月号参照）。

ソング・セービは、日本でも注目され初めており、そこに宿泊し会議や研修に参加するスウェーデン人客に混じって日本人も見受けられるようになってきた。ソング・セービで数年間にわたり、ナチュラル・ステップの基本原則にのっとり、環境対策を指導してきたジミー・シェーブロム（Jimmy Sjöblom）さんは環境教育コンサルタントとして独立し、日本にも招待されるようになった。

ソング・セービの良好な経営状況のもとで、今年夏、16室が新たに増設された。増設にあたって、可能なかぎり環境に配慮したため、建設業界の注目を集めた（以下参照）。

ホテルのサービス基準ができたことで、認定エコホテルの質を比較することが容易になった。新たな競争にさらされるようになったソング・セービは、

95年から発行している環境報告書の形式を変えた。

化学物質対策で悩む ソング・セービホテル

ソング・セービの99年環境報告書は白鳥マークの認定に合わせ、認定基準の7分野である1) エネルギー、2) 水、3) 洗濯・掃除・化学薬品、4) ごみ処理、5) 原材料と消耗品、6) インテリアと設備、7) 運輸の各項目ごとに進展ぶりや改善すべき点などを説明している。経営方針の柱にしているナチュラル・ステップの4つのシステム条件（ ）との関連も大きな数字で明確に表している。報告書によると、より良い方向に進んでいる部門は多いが、一番改善が進んでいない分野は化学物質の排出管理だという。ソング・セービは独自の下水処理施設をもっているが、その汚泥をホテル所有の畑で使う計画をしている。しかし、汚泥に含まれるある種の有機化合物や重金属の量がまだ環境保護庁の基準値を上回っているため、まだ畑での使用は実現できていない。外部からの下水も一部受け入れているので、ホテル側だけに責任があるかどうかは不明だという。タオルの洗濯回数を節約しようと呼び掛けの紙が世界各地のホテルのバスルームに置かれるようになってきたが、ソング・セービではトイレに吸い殻、溶剤などを捨てないでくださいとお願いしている。

下水処理水の質を向上させるため、2000年中に、プールの消毒に使っている次亜塩素酸ナトリウム（英名：Sodiumhypochlorite）をより環境にやさしいものに切り替える予定である。（自治体の下水処理基準はすでに十分クリアしている。）

ちなみに、固形物と小水を分離して流す仕組みの「分別トイレ」を導入した自然循環型ホステルのプロクターダール（Bråtadal）を訪問した時、抗生物質など薬を飲んでいる客に使ってもらう別の普通のトイレを用意していることを知った。「なるほど、私達人間からの廃物を分別処理する時代も来るかもしれない」と思った。ソング・セービのバスルームの表示を見ると「やはり、そうなるだろう」と思った。

ソング・セービの飲料水は近くのメーラレン湖の水を独自の施設で浄化しつくっており、十分良質だが、宿泊客1人1泊当たりの水使用量は白鳥マーク基準の250リットルを超えてしまっていた。2000年はそれを200リットルまで下げるのが目標。

ごみについては以前から大きな成果をあげている。

つづく

スウェーデン環境ニュース

2000年 9月号 ページ2 / 3

1ページからつづく

宿泊客1人1泊当たり、分別処理不可能な廃棄物は95年の約1・7キロが99年には100グラム以下にまでなった。白鳥マーク基準の1キロを見事に下回っている。

食料については、99年の目標だった有機食料の15%使用は達成できず、11・1%に留まった。その理由は、社内の厳しい品質条件に見合う商品の供給が不十分なためだという。

主要な評価数値をナチュラル・ステップの四つのシステム条件の形でまとめた結果、1、3、4の条件はプラス傾向にあるが、条件2はマイナス傾向にある。すなわち、化学物質の拡散に十分な対策が取れていないことを意味する。

報告書は非常に分かりやすく参考になるものなので英語になっていないことを残念に思う。

ナチュラル・ステップのシステム条件についてはナチュラル・ステップ・ジャパンのホームページを参照にしてください：

<http://www.tnsj.org/tnsj>

ソング・セービホテル(英文)：

<http://195.84.130.69/eng/index.html>

他の白鳥マーク認定ホテルについては白鳥マークのホームページを参照にしてください(英文)：

<http://www.svanen.nu/Eng/ecolabel.htm>

北欧で旅行する機会があれば、是非泊まってみてください。特にRica City Hotel Kungsgatanはストックホルム市の中央部にあるので、泊まりやすい。Lingatanはヨーテボリ市の北、Två Skyttlarはヨーテボリ市の東南、それぞれ自然に囲まれたところにある。Sunwing Resort Åreはスキー場のリゾートホテル。

建設業界に注目された 小さな建設事業

ソング・セービホテルが増設した1棟(16室)

は、「メーラルブリック」(Mälarblick=メーラレン湖を臨む)と名付けられ、周囲の自然に囲まれているため目立たない。しかし建設を決めたときから、建設事業はスウェーデンの建設業界に注目された。少々コストが高くて、市場に出ている優れた環境技術や建材、そして環境意識の高い企業を選んで進めた建設事業だったからである。入札の結果、環境分野で先端を走りたい建設大手のNCC(エンシーシー)社が建設を担当することに決まった。NCC社はストックホルム支部の500人の職員を対象に環境教育を施すなど、環境面に力を入れている。

建物は、もともと敷地にあった岩や木に調和させているうえ、建物は蛇のように曲がりくねった構造になっている。その結果、部屋の隅の角度が普通の90度ではなくなり、部屋の奥の壁が少し狭くなっている部屋もできた。その代わりに湖に面したところは幅の広い大きなガラス窓になっているから木々に囲まれたメーラレン湖がよく見える。下の岩盤をあまり破壊しないよう、床の高さにも上下をつけ、廊下はゆるやかな波形になっている。

暖房は太陽熱と地熱で賄う。夏期、余った太陽熱は岩盤の中へ送られ地下で蓄積される。太陽電池の経済効率率が上昇して使用可能になる時代への準備として、太陽電池を接続できるようにもしている。

またこの建物は木造なので、主にFSC認定の木材を使っている。FSC(=Forest Stewardship Council)というのは環境に配慮した林業から産出された木材として国際的に認められた「木材のエコマーク」である。スウェーデンの林業の認定は早くから進んでいるが、認定木材で造られた建物はまだ珍しい。

(Byggfakta雑誌2000年1号+2号、ソング・セービ資料など)NCC社による英文紹介：

http://www.ncc.se/english/environm/casestud/sanga_saby.htm

バルセベック原発2号基の 廃止が遅れる

スウェーデンは12基の原発を段階的に廃止することを決めている。99年11月、その第一弾としてバルセベック(Barsebäck)1号基が廃止された(99年12月号参照)。1号基の廃止を可能にしたのは社会党と左翼党、中央党とによる97年の政策合意だ
つづく

発行/編集：Lena Lindahl(レーナ・リンダール) 編集協力：平野真佐志 会員管理/広報協力：土屋なおみ
年11回ファックス発行、年間購読料5,000円、記事の転載をしたい方は連絡ください。

問い合わせ先：電話/ファックス：03-3422-7019、<http://www.netjoy.ne.jp/~lena>

スウェーデン環境ニュース

2000年 9月号 ページ3 / 3

2ページからつづく

った。その合意によりと、2号基は2001年の7月1日までに廃止することになっていた。しかし、2号基の廃止には条件がある。その条件は、十分な電力が別の方法で供給ができること、あるいは省エネの成果が上がることである。また、そのエネルギーはなるべく再生可能な、国内のエネルギーが望ましく、化石燃料の使用を増やさないことになっている。政府は現時点では条件が満たされていないと判断している。

9月19日、3党は条件がまだ整っていないという共通認識に達し、2001年7月1日までに2号基を廃止するのは無理だと判断し、延期することに合意した。環境党や環境保護団体などから反発が出ている。交渉はまだつづいているので、新しい廃止期限が設定されるかどうかはまだ不明。2002年9月、4年ぶりの選挙が行われる。最初の合意では、2基目の廃止については次期選挙が始まる前に処理をする段取りで「2001年7月1日」という日程が設定された。(DN新聞00/09/19,09/20)

ABB社、原発事業から離れる

9月14日、スウェーデンバイオエネルギー協会を訪問する機会があった。バイオエネルギー事情について説明してくれたフレドリク・ラーゲルグレン(Fredrik Lagergren)さんはその中で、スウェーデンに関係の深い多国籍企業ABB社(本社スイス)の最近の方針転換に触れた。原発の技術でよく知られているABB社は、「分散型のエネルギーシステムが一番将来性があると判断しているから、原発部門を売却した」と話した。びっくりするニュースだったが、ABB社のホームページで確認すると、確かに99年12月29日のニュースリリースではその通りだ。ABB社は、イギリスの原発技術会社BNFL社にすべての原発関連事業を売却することを決めた。それはアメリカ、スウェーデン、フランス、ドイツにあるすべての原発関連事業を意味する。「残っている発電事業は再生可能なエネルギーと配電が中心」とABB社がいう。(2000年6月

号にABB社の風力発電技術について紹介した)

(<http://www.abb.com>, 99/12/29 ABBプレスリリース)

「自然と環境のファイル」 環境教育教材の和訳完成

スウェーデンの小学校で使われている環境教育教材「自然と環境のファイル ~ ライフスタイル編」(ステーナ・ヨハンソン著、特別非営利活動法人(NPO)かながわ環境教育研究会発行)、の日本語訳(クリスティーヌ高見・高見幸子・福島奈々・吉澤飛鳥訳)ができた。ロップンという女の子の生活を通して、自然や環境との関わりについて、調べたり考えたりという作業を通して学び、行動につながってゆくように構成されている。教材は子ども向けなのでたくさんの絵、そして振り仮名もついている。スウェーデンの事情をそのまま日本語に置き換えているので、スウェーデンの社会、そして、スウェーデンの環境教育の考え方を理解するに非常に分かりやすくて便利な本だと思う。指導者用解説もある。

自然と環境のファイル：1,500円(税込、送料別)

指導者用解説：400円(税込、送料別)

問い合わせ先：かながわ環境教育研究会

Tel/Fax: 046-269-5646

スウェーデン・エコロジカルな暮らし

~ 自分らしく生きるために ~

講演会

日時：11月18日(土) 13:00~15:30

講師：アキコ・フリードさん

会場：スウェーデン社会研究所

事務局内イベントルーム(東京都港区)

会費：500円

93年よりスウェーデン南部在住のアキコ・フリードさんが環境問題、遺伝子組換え食品、男女平等そして避妊用ピルに関するトピックを中心に、日本、スウェーデンとにかかわらず、ひろく地球に住む人間としての生き方のヒントを紹介する。

問い合わせ先：スウェーデン社会研究所

Tel:03-5776-1835

電子メール：jiss99@tkg.att.ne.jp

<http://www.sci-news.co.jp/sweden>

発行/編集：Lena Lindahl(レーナ・リンダール) 編集協力：平野真佐志 会員管理/広報協力：土屋なおみ
年11回ファックス発行、年間購読料5,000円、記事の転載をしたい方は連絡ください。

問い合わせ先：電話/ファックス：03-3422-7019、<http://www.netjoy.ne.jp/~lena>